

ハドソン : 「超帝国主義」 著者との対話 3

米国はいかに同盟国を蹴落としてきたか

ベン： 米国が敵対者だけでなく、英国や日本のようないわゆる同盟国に対しても経済戦争を仕掛けてきた。どのように行ってきたのかを説明して欲しい。

ハドソン： 第二次大戦中、イギリスは戦争遂行のため英国ローンと呼ばれるローンを組んだ。債権を買うのは米国だった。その結果、買い主を損させないためにイギリスはポンドを5ドルで維持しなければならなくなった。

その結果、1945年から1950年頃まで、イギリスはこの巨大な過大評価された英ポンドを返還するため、インド市場、アルゼンチン市場、スターリングエリア内にあったほとんどすべての国の市場を手放さざるをえなかった。

一方で米国は、英国の国内金融政策の支配権を獲得していた。

ドイツが連合国に降伏したように、イギリスは米国に降伏したのである。

日本でも同じだ。1985年、当時の国務長官のジェームズ・ベイカーは、「レーガノミクスとは何か？」と問われ、こう答えた。

それは低金利と富裕層への減税だ。そのために巨額の対外債務と財政赤字を抱えることになるが、それを債券化して日本に買わせる。

同時に日本に通貨の再評価を迫った。通貨は1ドルあたり240円から100円まで下がった。日本の自動車価格、電子価格、輸出価格は2倍になった。そして市場を失った。そして完全に壊れてしまった。

レーガノミクスは、他の国々にアメリカの減税の費用を負担させるという天才的な策だった。

しかし中国は日本や韓国のように考えていない。すべてを米国に捧げるようなことは考えていない。それで日本や韓国はどうだろう。彼らは突然、経済を米国ではなく中国に向けて、切り替えることもできる。

アメリカは軍事費と貿易赤字をさらに支援するために日本と他のアジア諸国を圧迫している。だから、これらの国々は、米国の関係から何を得るのかと疑いだしている。

中国と交渉して、南シナ海の石油とガスの埋蔵量を共有できる地図を作成できたらもっといいのではないかと考え出している。

バイデン政権とインフレ問題

マックス： 今、バイデンの最悪の問題、バイデンが今直面している最大の問題は、インフレ、高い食料価格だ。記録的なガソリン価格が発生している。グローバルサプライチェーンは至るところで詰まっている。

米国経済は、財政的に無力化されている大量の大量の労働者、下向きに移動する中産階級、無限のお金の印刷、そしてこれの結果、より多くの富が集中するのを見ている。

ハドソン： インフレの話だが、不正確なところがある。

数兆ドル、数兆ドル、より多くのお金、より本質的なクレジットを印刷しているが、はすべて株式市場、債券市場、パッケージローン市場に投入されていて、それらの資金は実体市場には影響していない。

それは国内インフレではなく、資産価格インフレに回っている。いま問題になっている国内インフレは、マネーサプライの増加ではなく、供給不足によるものである。

ここ 20 年の間に、企業は可能な限りコストを削減し、そのために在庫を最小限に抑えた。いわゆるカンバン方式だ。ところがコロナによって突然、彼らはすべての在庫を使い果たした。さらに送料は 10 倍になった。1 年前の 10 倍だ。

それは大なり小なりすべての国で起きているのだが、米国においてとりわけひどい。

ヨーロッパのエネルギー危機の本質

ベン：ヨーロッパのエネルギー危機に関連して伺いたい。

ハドソン：まず抑えておかなければならないのは、短期的思考と長期的思考の両方が必要だということだ。

危機のきっかけは、欧州委員会がロシアからガスと石油を輸入するための長期契約を、すべてキャンセルしたことだ。代わりに、短期的にはスポット市場でロシアのガスと石油を購入した。

ところが最近、ガスと石油の価格が高騰した。これは主として東アジアの国々がコロナウイルスのパンデミックから回復したためだ。

今、ヨーロッパはガスと石油が非常に不足している。理由はロシアとの政治対決ではなく、それを隠れ蓑にした**欧州委員会と銀行家たちの短期的な新自由主義イデオロギー**である。それをイデオロギー的な対決姿勢でごまかしているだけだ。

彼らはロシアを非難し、ロシア人から購入するよりも暗闇の中で飢えたほうがいいと言っている。それが意味するのは、アメリカ人から彼らの銀行口座に入金する賄賂を受け取ることではない。

プーチンが考え、ラブロフが言うように、欧州委員会はヨーロッパを代表していない。ブリュッセルはワシントンで働いているということだ。ブリュッセルは米国国務省の一部門だ。それはヨーロッパの民衆とは何の関係もない。

ヨーロッパはいまや民主主義ではなく、金融寡頭制である。それはまた、米国によって管理されている軍事化された寡頭制でもある。

ヨーロッパはアメリカ人を喜ばせるために行動しており、家々を凍らせ、暖房パイプを凍らせ、家を氾濫で水浸しにさせようとしている。

このような状況が革命を起こすことなくどこまで続くだろうか。社会主義者は反アメリカの立場をとっていない。目下のところ、主要な抗議は、驚くことに、左からではなく右から来ている。

ドイツでは「ドイツのためのオルタナティブ」が躍進し「左翼党」が惨敗した。ヨーロッパの社会主義政党と左翼政党はすべて親米党である。

彼らはもはや経済学について語らず、福祉について語らず、ドロドロなので、私は彼らが言っていることを要約することさえできない。

財界の「グレートリセット」論について

マックス： 世界経済フォーラムの会長であるクラウスシュワブが、グレートリセットを提起している。ナオミ・クラインはそれを陰謀説として非難した。これについてどう思われるか？

ハドソン： 彼らは「未来はこれまで世界になかったものである」と訴えている。一言で言えば、彼らは、現実ではなく、世界を驚かせるようなレトリックを信じるように訴えている。

可能な政府は2種類だけだ。1つは、バビロニアのシュメール以来の通常の政府だ。それは政府が基本的なサービスを提供し、民間部門が貿易とイノベーションを担う混合経済である。

もう1つは、崩壊する直前のローマで一時的に出現した国家形態である。そこでは政府は存在せず、ビジネスを規制したり課税したりするすべての力も存在しない。

通常のリバタリアンと異なり、経済計画は必要だと考える。中央で計画された経済が必要であるが、その計画者はウォール街、ロンドンの街、そしてパリ証券取引所になる。

ファイナンシャルプランナーがこの計画を引き継ぐ。そして彼らはそれを生産する人々、労働、原材料国にファイナンスすることになる。

彼ら「世界経済フォーラム」の幹部が、政府なしで仲良くして、世界を支配しようというのだ。

すでに現実に彼らは世界を支配している。そして世界はますます悪くなっている。

彼らだけがどんどん良くなっていることをどうやって世界に納得させ、自分たちの手にますます多くの富を集中させて行くのか？

以下会場からの質疑応答については省略。